

FOMCを受けての日米株式・リート市場

しばらくは追加利上げの有無を探る展開が続こう

2023年6月15日

政策金利は久々に据え置かれたが、利上げへの警戒感が残る

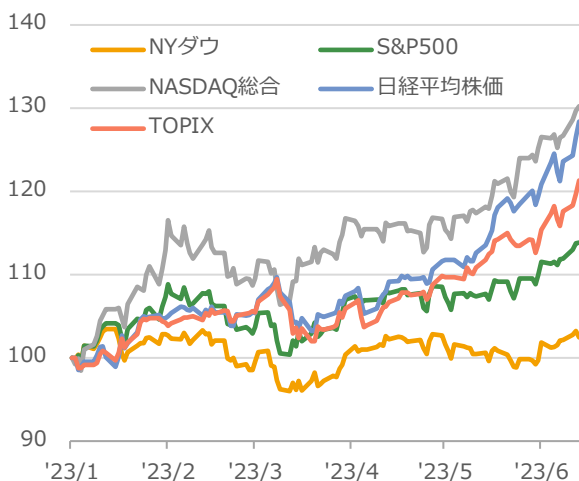
FRB（米国連邦準備制度理事会）は6月13-14日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを市場予想通り5.00～5.25%で維持しました。政策金利の据え置きは2022年1月以来です。

米国株式市場はFOMCの結果を受けて一旦下落しましたが、その後反発し、主要指数は前日比まちまちで取引を終えました。FOMC参加者の政策金利見通しが引き上げられた点が警戒されたものの、パウエルFRB議長の会見内容が大幅な追加利上げを強く意識させるものではなかったことなどが、そのような株式市場の動きにつながったと推測されます。今後の米国株は、物価や雇用の指標を見極めながら利上げの有無を探りつつ、戻りを試す展開となりそうです。日本株は、おおむね想定内だったFOMCの結果を受け、足元の日本株独自要因を評価する動きがまだしばらく継続しそうです。

米国リートもFOMC結果発表後は、一旦下落の後、反発しました。株式に比べると追加利上げの可能性がより警戒されたとみられるものの、債券市場が比較的落ち着いた動きだったことが安心感をもたらしたようです。今後も利上げの可能性が意識されやすいと思われますが、債券利回りが大きく上昇しない限り、底堅さは維持されるでしょう。国内リートは、FOMCの影響は軽微とみられ、日銀の金融緩和路線維持や、足元大きく上昇した株式との相対的な割安感などを評価する展開になると考えられます。

日米主要株価指数

(2023年1月初～2023年6月14日)

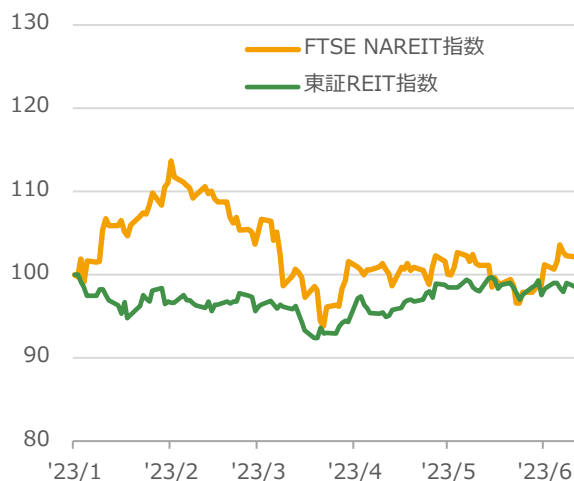


※起点を100として指数化

(出所) ブルームバーグ

日米リート指数

(2023年1月初～2023年6月14日)



※起点を100として指数化

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management